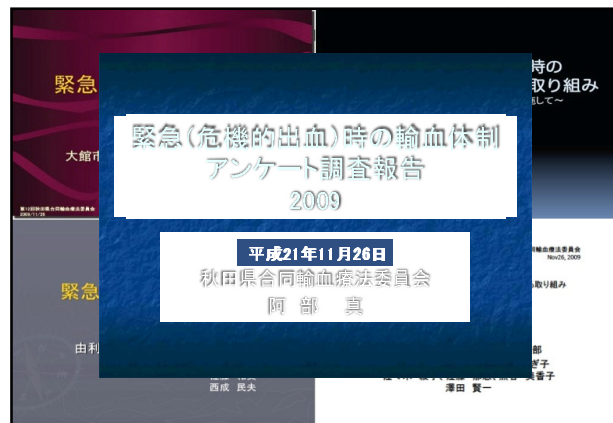


緊急（危機的出血）時の輸血体制

交差試験省略と異型適合血

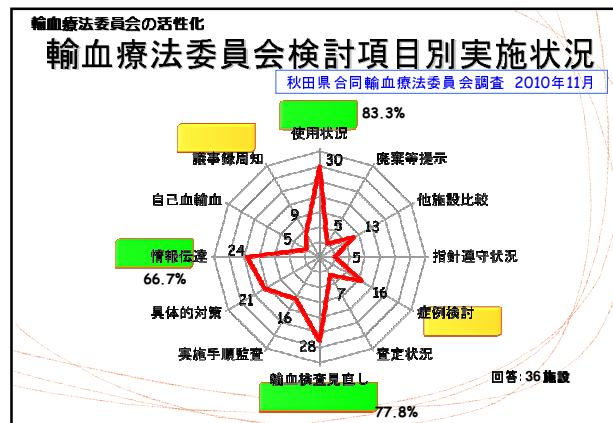
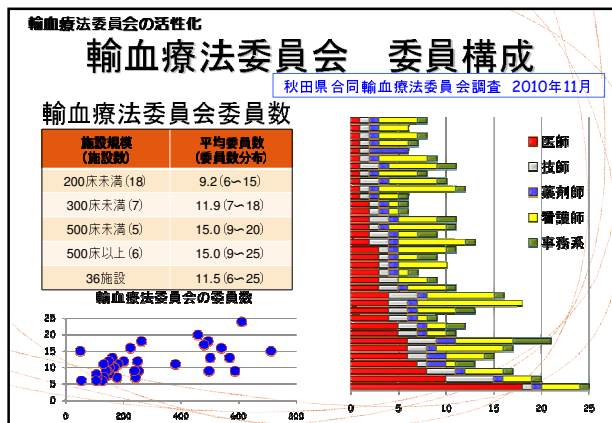
秋田県合同輸血療法委員会調査 2009年11月

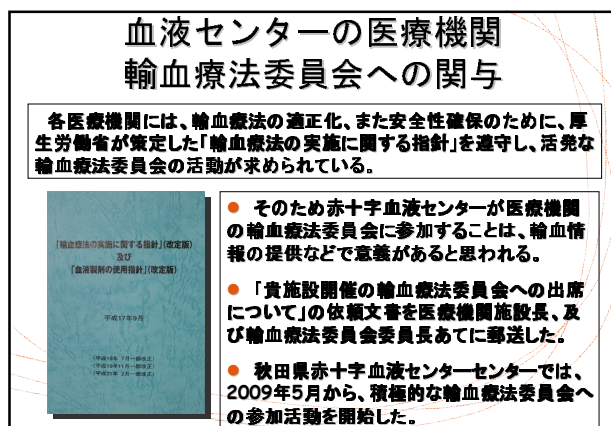
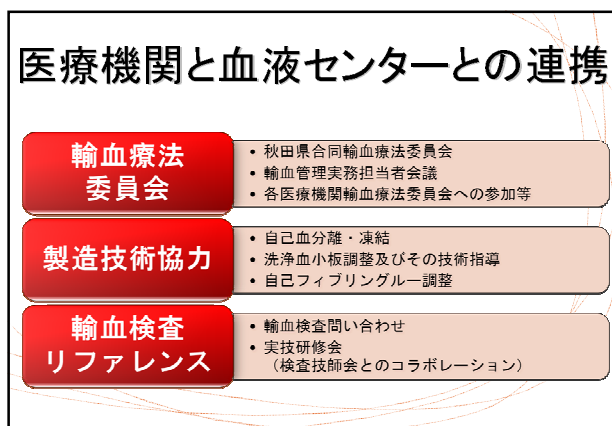
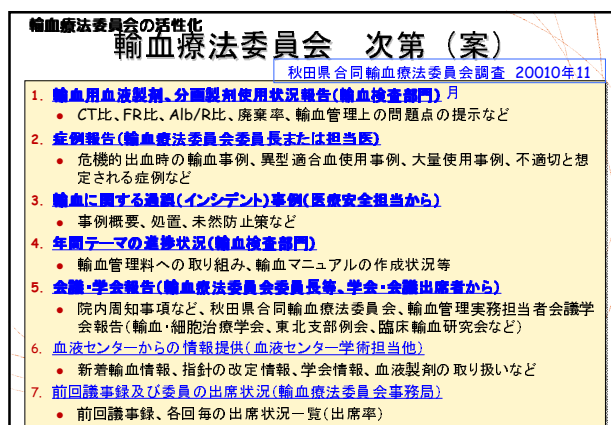
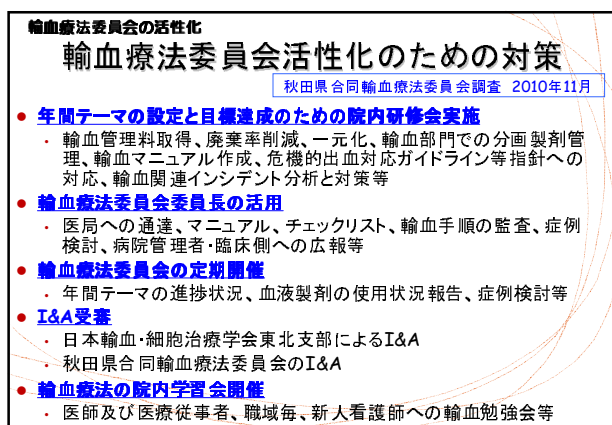
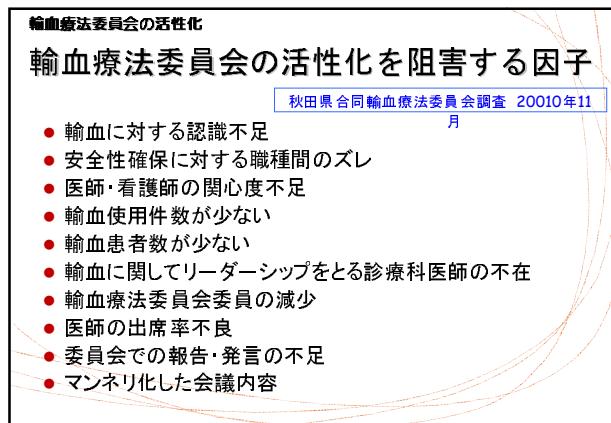
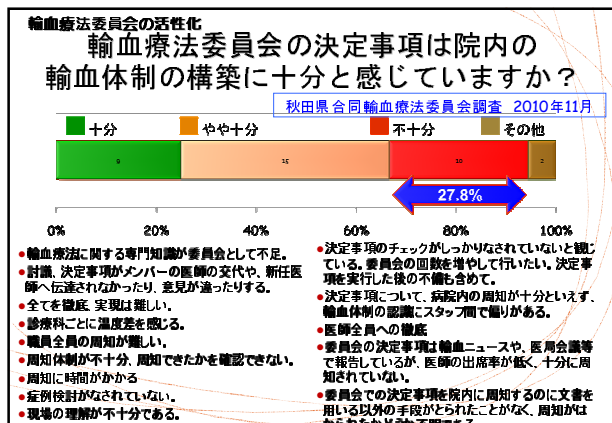
2009（2006） 異型適合血の使用に		交差試験の省略に				
		躊躇はない	躊躇する	わからない	回答無	合計
躊躇はない	11 (5)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (6)	
躊躇する	0 (4)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	14 (18)	
わからない	1 (2)	0 (1)	13 (11)	0 (0)	14 (14)	
回答無	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (14)	10 (14)	
合計	12 (11)	14 (16)	13 (11)	10 (14)	49 (52)	

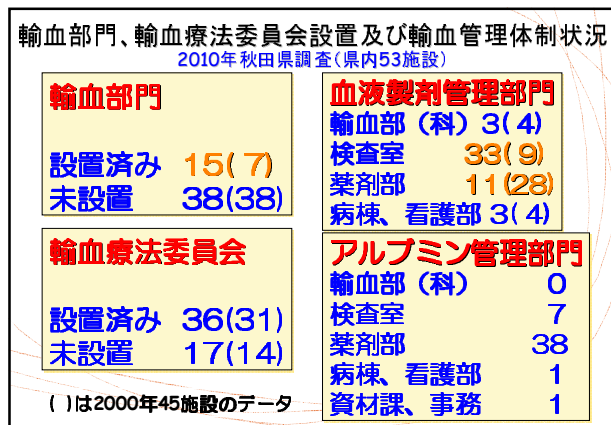
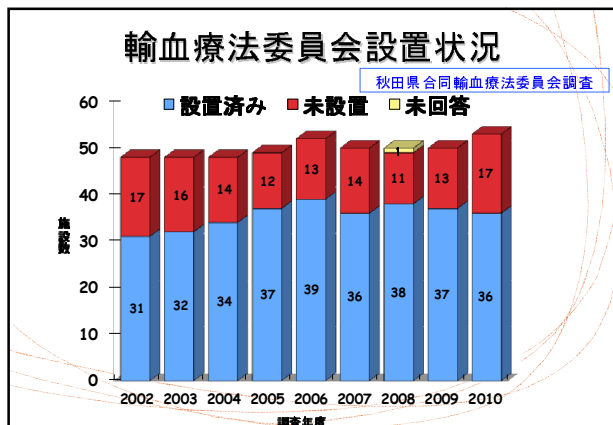
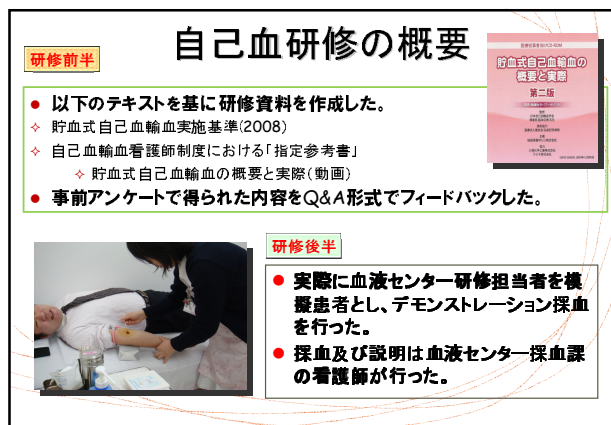
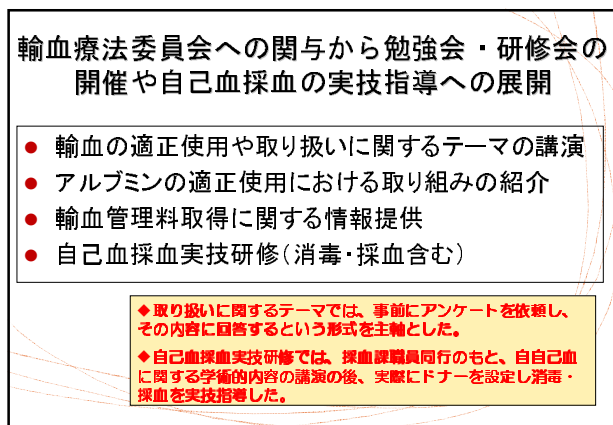
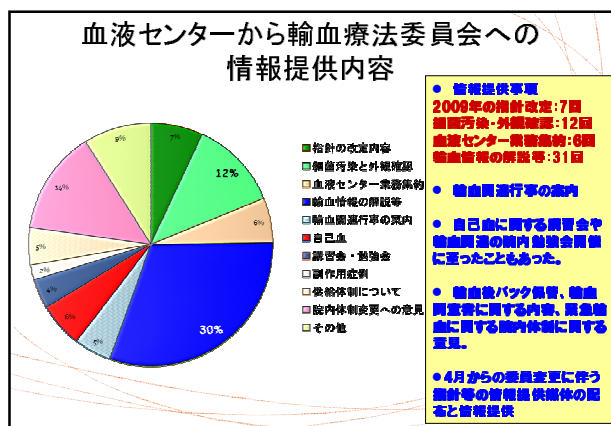
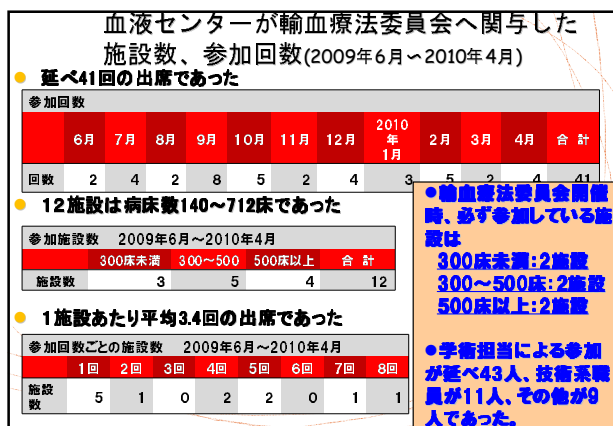


- 緊急輸血・大量輸血への対応と問題点（討論事項）**
- 輸血検査の24時間体制
 - 院内備蓄量と血液センターまでの距離
 - 「緊急輸血」の定義と院内周知
 - 指針やガイドラインの認知(所内周知)
 - 異型適合血の概念
 - 緊急時の交差試験の方法
 - 手術室との連携(情報の共有)
 - 院肉体制不十分との認識

- 「輸血療法の実施に関する指針」**
- II 輸血の管理体制の在り方
1. 輸血療法委員会の設置
 - ・ 定期的開催
 - ・ 検討事項
 - ① 輸血療法の適応、
 - ② 血液製剤（血漿分画製剤を含む）の選択
 - ③ 輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と制度管理
 - ④ 輸血実施時の手続き、
 - ⑤ 血液の使用状況の調査
 - ⑥ 症例検討を含む適正使用推進の方法、
 - ⑦ 輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握方法と対策
 - ⑧ 輸血関連情報の伝達、⑨ 院内採血の基準、
 - ⑩ 自己血輸血の実施方法
 - ・ 改善状況の検証、議事録の作成、保管、院内周知

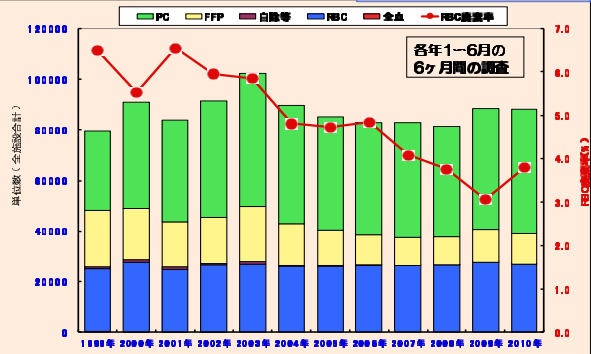






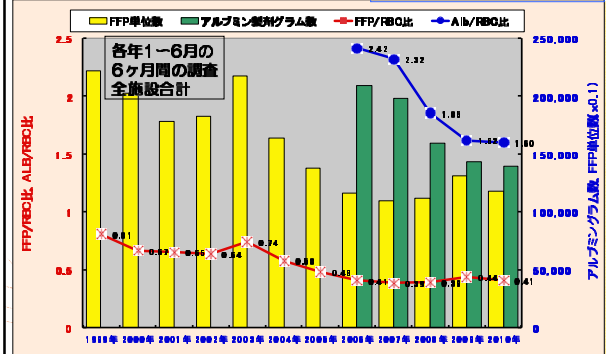
血液製剤使用単位数、廃棄率の推移

秋田県合同輸血療法委員会調査



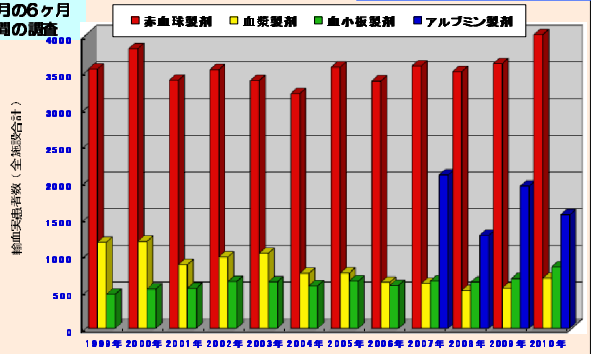
FFP/RBC比、ALB/RBC比の推移

秋田県合同輸血療法委員会調査



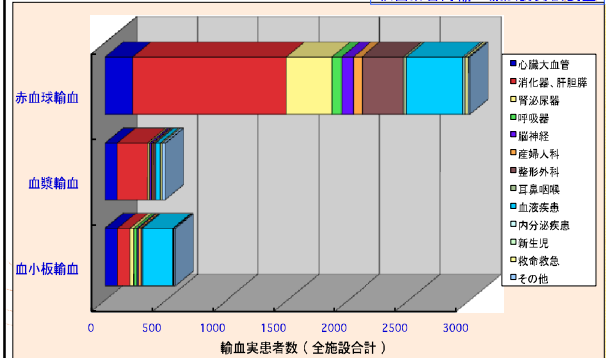
秋田県における輸血実患者数の推移

各年1～6月の6ヶ月間の調査 秋田県合同輸血療法委員会調査



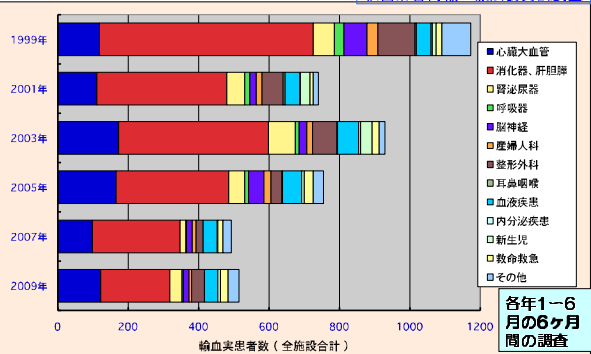
疾患別輸血実患者数—2009年—

秋田県合同輸血療法委員会調査



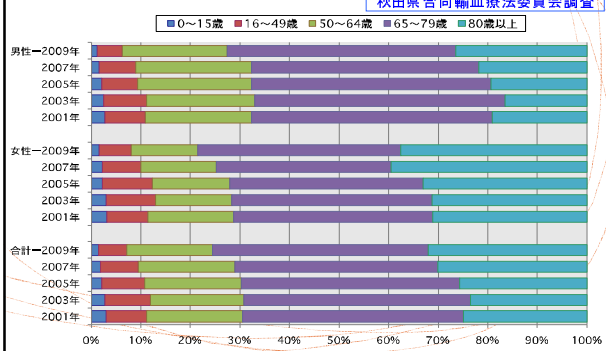
疾患別輸血実患者数の推移—血漿輸血—

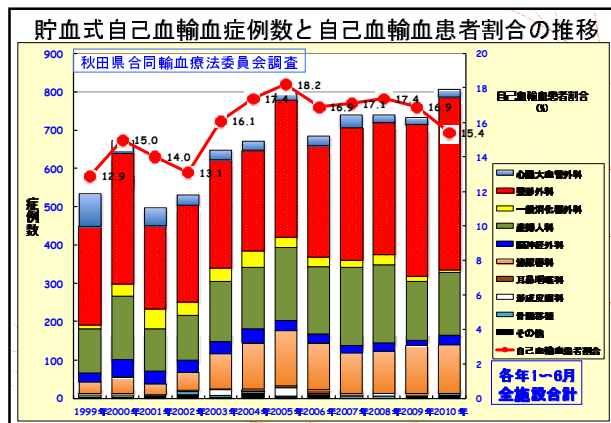
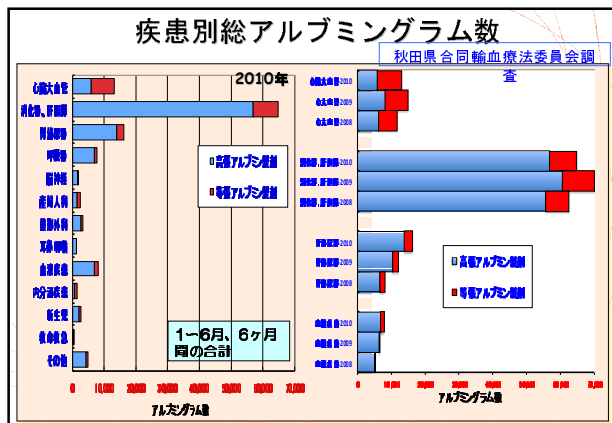
秋田県合同輸血療法委員会調査



年齢別輸血実患者数割合の推移

秋田県合同輸血療法委員会調査

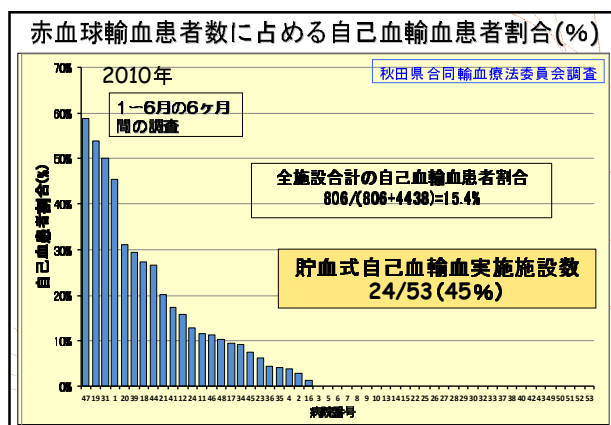




貯血式自己血輸血実施状況

2010年秋田県調査(県内53施設)

貯血式自己血輸血 実施 24 (45%) 未実施 29 (55%)	自己血採血方法 全血 22 MAP+FFP 2 自己フィブリン調作成 3
輸血管理部門と実施率 設置済み 13/15 (87%) 未設置 11/38 (29%)	輸血療法委員会と実施率 設置済み 22/36 (61%) 未設置 2/17 (12%)
輸血管理部門と平均症例数 設置済み 34.6例 未設置 7.6例	輸血療法委員会と平均症例数 設置済み 20.5例 未設置 4.0例
病床数と実施率 200床以上 15/19 (79%) 200床未満 9/34 (26%)	赤血球製剤使用数(単位)と実施率 500単位以上 14/15 (93%) 500単位未満 10/38 (26%)



- ### 合同輸血療法委員会の役割
- 輸血実態の把握が可能 (疾患別、年齢別等の定点観測)
 - 輸血医療の変遷に対応した活動・調査
 - 情報の共有と情報交換が可能
 - 各医療機関の輸血療法委員会の活性化
- ### 合同輸血療法委員会の課題と今後
- 開催の継続
 - 調査の継続
 - 輸血医療の変遷に対応した活動・調査
 - 情報の共有と情報交換の継続

